「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」検討・準備グループ（第9回）
新テスト実施企画委員会（第6回）
（主な意見）

日時：平成29年3月22日（水）10：00～12：00
場所：文部科学省3F2特別会議室
出席委員:岡本主査、荒瀬委員、沖委員、川上委員、東島委員、宮本委員、安井委員、
乾委員、島田委員、清水委員、田中委員、林委員、福永委員、前川委員、
吉田英語四技能実施企画部会長

【新テストの実施方針（案）について】

＜「1．名称」～「6．記述式の実施方法等」＞
〇東島委員
・ 名称は変えたほうが良い。「大学入試共通テスト」で、略称「共通テスト」が良いと思う。
・ 自己採点は、基準を示すのが難しいので記述式ではやらなくても良いのではないか。ただ、自己採点ができないと、これまでのような自己採点を基に出願先を選択する方法を否定することになる。

〇岡本主査
・ センター試験は国公私立の教員も作題等に関わっているので、「共通」という文言は入れたい。「大学共通学力テスト」で略称「共通テスト」などはどうだろうか。
・ 出題科目の変更は、平成36年以降見直すとあるが、科目だけではなく全体の様式も、平成36年に向けての準備段階として、平成32年度から変更すると記載しても良いのではないか。

〇川上委員
・ 200字から300字の問題は、個別試験の国語に代替できるものなのか。

〇沖委員
・ 記述式の問題は、国語の場合、従来のマーク式に記述式が追加されるというイメージか。それともマーク式と記述式を合わせて全体を設計するイメージか。対応の仕方が変わってくるが、どこまで決まっているのか。
・ 長文記述式問題は国立大学で使うイメージだと思うが、私学も使うことはできるのか。

〇山本理事長
・ 出題教科・科目の簡素化は、次期学習指導要領に基づくテストが行われる平成36年度からとなっているが、平成32年度から簡素化したほうが良いのではないか。科目が同じだと、「大きく変わる」というメッセージ性がなくならないか。

〇前川委員
・ 2．目的の書き方がわかりにくく、「思考力・判断力・表現力」が大学受験に必要な能力と読むことができるが、どこでそれらの能力を身につけるのか。

〇林委員
・ 国語の記述式については大問として分けるとあるが、数学のようにマーク式と混在したほうが素材を探す手間も少なくなるのではないか。

〇清水委員
・ 2. 目的の背後には、個別入試と共通テストの棲み分けについても論点として明確にすべきで、書き方にはもう少し工夫が必要。

〇島田委員
・ 国語の記述式は、素材探しは大変だが、独立した大問で作成するほうが作りやすい場合もある。本来は記述式で測りたい能力が先にあって、その後で素材を考えるのがよい。

＜「7. 英語の4技能評価」＞
〇福永委員
・ センターの障害のある受検者への配慮は、点字や時間延長など提供手段を変えることにより、同じ問題を解けるようにするというのが基本の考えとなっている。英語4技能の試験では、同じ問題を解けるように提供手段を変えるのか、別の問題とするのか。この点について早急に検討し、障害のある受検者に受検の機会を提供するように示してほしい。

〇立脇先生
・ 民間の資格・検定試験では聴覚障害者への支援ができないので、スピーキングとリスニングを免除するなど、対応を考える必要がある。

〇東島委員
・ 浪人生は翌年にもう一度試験を受ける必要があるのか。

〇乾委員
・ 4技能のうち、特にスピーキングは多くの資格・検定試験で対応が異なっている（同一日程・別日程、対面式・CBT など）。会場や日程の面もあり、平成32年度から本当に実施できるのか。

〇吉田部会長
・ 上智大学では TEAP 入試を行っており、TEAP の総合得点250点のうち、学科によって技能別の重みづけを変えているので、同じ250点でも差別化できている。（例えば、△△学科はスピーキングが〇〇点以上など）
・ 4技能は個別に測っていないので、分解することはできないが、4技能全体で評価することを前提として、それぞれの技能別評価を取り出すことは可能。

〇山本理事長
・ 平成36年度からセンターのリーディング、リスニングを実施しないと記載されているが、ボリュームゾーンに対する識別力や、障害者配慮の点も含め慎重に検討する必要。「平成36年度以降については実施しない方向についても検討する」としてはどうか。

〇沖委員

・ ボリュームゾーンを抱える私学にとっては、センターのリーディングが残ったほうが選抜しやすい。将来的に高校の教育が変われば、4技能だけで対応できると思うが、それがどのくらいで実現できるか明確ではない。
・ 英語以外の外国語の民間資格・検定試験の活用についても議論する必要。
・ 実施側としてはセンターのリスニングについての取り扱いを検討してほしい。

〇荒瀬委員
・ 資格・検定試験2技能＋センター試験2技能という選択肢はないのか。
・ 資格・検定試験4技能＋センター試験2技能となっているが、資格・検定試験2技能ではなぜ難しいのかということや、重複等による負担感に対する説明が必要。

＜「8. マークシート式問題の改善」～「11. その他」＞
〇前川委員
・ 6ページに「正答数や平均正答率、得点分布」という記載があるが、「成績」という書き方で良いのではないか。

〇山本理事長
・ 6ページの「主として知識・技能を中心に評価する問題と、主として思考力・判断力・表現力を中心に評価する問題の～」という記載があるが、実際に分別することができるのか。

〇川上委員
・ 実施時期・成績提供が1週間遅れるとなると、個別試験の日程を変更しないと対応できないが、そのあたりの検討はしているのか。

〇林委員
・ 国語だけが大問毎の点数を提供しているが、全ての教科で大問毎の点数を提供をしてほしい。
・ （1）マークシート式問題の下に、「※大学が指定した教科・科目については、すべての問の結果を求める。」という記載があるが、（2）記述式問題の下に記載した方が良いのではないか。

【モデル問題・採点基準（案）について】
〇荒瀬委員
・ 新学習指導要領の科目も想定した問題だと思う。受験生には出題のねらいや、採点基準を示すという理解で良いか。受験生へのアピールとして公表していくことをお願いしたい。

〇伯井理事
・ 今回のモニター調査では、受験生に正答例などを公表している。本番の試験でどこまで公表するかは、議論が必要。

〇島田委員
・ 自己採点がどれくらいできるかは、本人の読解力も必要。難しい問題ほど、自己採点と評価結果の一致率が高いのはそういう理由もあると思う。